



第97回箱根駅伝予選会

2年ぶり16回目の  
本戦出場決める！

「強い城西、見せつけた」  
総合3位

菊地主将・全体8位、  
11人が自己ベスト更新



日本人トップ集団を引っ張る菊地(右)と砂岡

今年新型コロナウイルス感染症防止対策として無観客で駐屯地の滑走路(周約2.6km)を周回するハーフマソン(21・0975km)の公認コースで行われた。12人が出場し、上位10人の合計タイムで競った。

男子駅伝部は、力のある菊地、菅原、砂岡の3人が先頭集団についてタイムを稼いだが、一方、他のメンバーは集団走で粘る作戦でレースに臨み、その作戦が見事にハマった。5km地点では12位だったが、10km地点で10位、15km地点で7位と順位を上げ、18km地点ではさら

「本戦ではエース区間でトップを取りに行く」(菊地)

本戦では上位というチーム目標に貢献したいと思っています。

菅原 伊織 (経営学4)

菅原伊織 國學院大久松

レースはしっかりと後半も粘ることが出来た良いレースでした。巨大選手数に負けずに、本戦では区間賞を獲ってシード権獲得に貢献します。

堀川 由稀 (経営学4)

堀川由稀 惟信

想定外の高速レースとなりましたが、臨機応変に対応できたことが上位通過につながったと思います。

個人順位	名前(学部学年)	タイム
8位	菊地駿弥(経営4)	1時間01分45秒
13位	砂岡拓磨(経営3)	1時間01分52秒
18位	菅原伊織(経営4)	1時間02分06秒
49位	堀川由稀(経営4)	1時間02分48秒
65位	藤井正斗(経営2)	1時間03分02秒
111位	宮下瑞久(経営3)	1時間03分26秒
115位	山本唯翔(経営1)	1時間03分28秒
125位	山本 樹(経営1)	1時間03分34秒
144位	雲井峻太(経営4)	1時間03分45秒
159位	野村颯斗(経営1)	1時間03分51秒
221位	山中秀真(経営1)	1時間04分31秒
237位	堀越大地(経営1)	1時間04分52秒

(12人出走し、上位10人のタイムの合計で競った)

2面に関連記事

非常に緊張感ある戦いで大きな収穫

今年の予選会は、コロナ禍による活動制限のため思うような練習ができなかったことや、競技会中も他大学の動向が見えない非習に緊張感のある戦いでした。そのような状況下で結果を出す位、予想以上の成績で通過することができました。しかも多くの選手が自己ベストを更新できたことはとても大きな収穫となりました。今後はもう一層トレーニングに励み、大金は楽しんであげたいと思います。

ご声援のほどよろしくお願い致します。

第97回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)予選会は10月17日、東京立川市の陸上自衛隊立川駐屯地で行われ、男子駅伝部は10時間29分37秒で総合3位と躍進。2年ぶり16回目の本戦出場を決めた。主将の菊地主将(経営4)が全体8位、砂岡拓磨(経営3)が13位、菅原伊織(経営4)が18位とチームを引っ張り、1年生5人を含めた出走12人のうち11人がハーフマソンの自己記録を更新。強い城西を見せた。来年1月2、3日の本戦では過去最高の5位以上を目指して「箱根路」を駆け抜けよう。

予選は11月17日(土)開催

今年新型コロナウイルス感染症防止対策として無観客で駐屯地の滑走路(周約2.6km)を周回するハーフマソン(21・0975km)の公認コースで行われた。12人が出場し、上位10人の合計タイムで競った。

男子駅伝部は、力のある菊地、菅原、砂岡の3人が先頭集団についてタイムを稼いだが、一方、他のメンバーは集団走で粘る作戦でレースに臨み、その作戦が見事にハマった。5km地点では12位だったが、10km地点で10位、15km地点で7位と順位を上げ、18km地点ではさら

「日々考えてきた構想を具現化できた」(コーチ)

コーチは初めて表彰台に上ることもでき、充実した1年となった。私も来年の目標は東京五輪、何なんでも出場したい」と抱負を語った。

日本インカレの200mは優勝経験者で今年度から本格的に指導にあたっている。0日の本場感コーチは「外野コーチで下積み期間を含めた4年目、きちんとした実績を残せた。日々考えてきた構想を具現化することができた。特に、水久保は4年生で集大成だった。彼は、競技において守破離を体現したことで、実績を残すことができたと考えている。今後、選手層の厚みのために努力していきたい」と話している。

「本戦では上位というチーム目標に貢献したいと思っています。」

菅原 伊織 (経営学4)

菅原伊織 國學院大久松

レースはしっかりと後半も粘ることが出来た良いレースでした。巨大選手数に負けずに、本戦では区間賞を獲ってシード権獲得に貢献します。

堀川 由稀 (経営学4)

堀川由稀 惟信

想定外の高速レースとなりましたが、臨機応変に対応できたことが上位通過につながったと思います。

日本インカレ チームとしても過去最高の総合7位

水久保 100メートル 200メートル

ダブル優勝

伊奈は400メートルハードルで7位入賞

鈴木も同時表彰台(100メートル3位、200メートル2位)

9月から10月にかけて陸上競技部主将の水久保(経営4)と鈴木(経営3)のシャウトスプリント陣による快挙が続いた。9月11日から13日にかけて新潟市の新潟カハレスタジアムで行われた第97回日本学生対校選手権大会(日本インカレ)では、水久保が本学初となる100m、200mでダブル優勝。鈴木は100m、200mで2位、200mで3位と表彰台に上がった。水久保の100mは10秒14、追い風1.4m/s、自身8月の大会で出した16秒26をさらに更新する城西大学新記録。日本学生歴代9位、その時点で今季日本ランキング4位の好記録で、日本のトップランナーの仲間入りをしたことを証明した。鈴木も10秒22でそれまでの自己記録(10秒33)を大幅に更新した。

200mは20秒75(向かい風0.6m/s)の水久保に続いて鈴木が20秒88でゴール。ワンツーフイニッシュを達成し、城西大学短距離陣の名を大いに輝かせた。400mは1分17秒で、伊奈(経営2)が7位入賞し、3人で31点をたたき出し、総合で過去最高の7位となった。

陸上競技部

表彰台メンバーでの記念撮影で笑顔の水久保(中央)と鈴木(左)

快挙! 続々、ショートスプリント陣

日本選手権 鈴木が200メートルで3位表彰台

第99回大会 佐藤選手以来の 本学2人目

関東学生対校でも優勝・入賞が続出

100m、鈴木1位、400m、伊奈2位、走り幅広し、1600m、1800m、2000m、同じスタジアムで10月1、3日に開かれた第100回日本陸上競技選手権大会は、鈴木が200mで第一人者に輝いて3位、20秒82、向かい風0.5m/sに食い込み、2015年の第99回大会の400mで2位だった佐藤(現大東)に次ぐ。経営3、現大東(通)以来、本学で2人の表彰台に上った。鈴木はハイペースな戦いとなった0.0秒6位(10秒41)、向かい風0.2m/s、入賞を果たした。水久保は100mで2位、200mで1本に絞って頂点を狙った。

また、練習中に足を痛め、無念の棄権となったのは残念だった。

さらに5月開校から10月開催に延期になった第99回関東学生対校選手権大会は10月9、11日、神奈川県相模原市の相模原スタジアム

今季の成績について、水久保は「春先から調子が良く、日本インカレでは冠ができる準備はできて、気持ちが入っていた。個人的にはオリンピック標準記録の10秒06に近づければもっと良かったが、標準記録突破は来年目指す。日本選手権は0.0秒で狙っていたが、ケガで出場することが出来なかった。この借りを返したい。そして東京五輪に出場します」と力強く語った。

また、鈴木は「昨年はケガに泣かされた1年だったが、今年は筋力トレーニングもたくさん取り入れ、ケガをしにくい身体作りを心がけた。スタートがうまく出れるようになったこと、並ばれても硬くならないことがベスト記録更新につながった要因と思う。日本

「日々考えてきた構想を具現化できた」(コーチ)

コーチは初めて表彰台に上ることもでき、充実した1年となった。私も来年の目標は東京五輪、何なんでも出場したい」と抱負を語った。

日本インカレの200mは優勝経験者で今年度から本格的に指導にあたっている。0日の本場感コーチは「外野コーチで下積み期間を含めた4年目、きちんとした実績を残せた。日々考えてきた構想を具現化することができた。特に、水久保は4年生で集大成だった。彼は、競技において守破離を体現したことで、実績を残すことができたと考えている。今後、選手層の厚みのために努力していきたい」と話している。

取材スタッフ  
千田 夏生(薬学部5年) 君島 麻未(経営学部4年) 知見寺美紀(2014年度卒業) 吉田 美咲(2015年度卒業)  
宝蔵寺佑樹(現代政策学部4年) 佛法谷佑樹(現代政策学部4年) 高桑 麗美(2017年度卒業)  
石川 慧(現代政策学部4年) 西村 太郎(現代政策学部4年) Jスポ フェイスブックはこちら ▶ <http://www.facebook.com/JOSAISPORTS>

記者募集  
記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材、書き方を基本から指導します。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生もぜひ参加してください。連絡はこちらまで ▶ [j-sports@josai.ac.jp](mailto:j-sports@josai.ac.jp)



硬式野球部

首都大学野球秋季リーグ

2部優勝果たす

「精神的にたくましくなった選手たち。それが勝ちにつながった」(村上監督)



優勝後の集合写真

新型コロナウイルスの影響で、今年も2部優勝を果たす。精神的にたくましくなった選手たち。それが勝ちにつながった。



首位打者獲得の 投手将が 最優秀選手賞に輝く

左から副将の河野聖也(経営4)、投手将、副将の野田修平(経営4)、ベストナインの鈴木秀亮

新型コロナウイルスの影響で、今年も2部優勝を果たす。精神的にたくましくなった選手たち。それが勝ちにつながった。

首位打者獲得の投手将が最優秀選手賞に輝く。精神的にたくましくなった選手たち。それが勝ちにつながった。

新型コロナウイルスの影響で、今年も2部優勝を果たす。精神的にたくましくなった選手たち。それが勝ちにつながった。



渡辺 直人選手(楽天)に聞く

硬式野球部OBで東北楽天ゴールデンイーグルスや埼玉西武ライオンズなどで活躍した渡辺直人内野手(40)が今季限りで引退する。

「良い準備をして毎日野球をやること。気持ちよく練習すること。勝つための準備を怠らないこと。」

「14年間で色々ありましたけれど、最大の思い出は充実した毎日です。毎日一生懸命野球に取り組んでました。」

「今のチームを見ていないので僕たちの時代と比べるとはできないですけど、やはり1部にはないと感じています。」

第38回 全日本大学女子駅伝 2年連続で来季シード権 粘りと力走でつなぎ昨年タイムを超える



第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会は4月25日、宮城県仙台市で6区間31.1kmのコースで開かれた。26年連続7回目の出場を女子駅伝部は7位で昨年から順位を1つ落としたものの、2年連続で準シード権(8位以内)を死守した。



区間別順位(左から)1区 藤村華純(経営2)、2区 村上礼乃(経営1)、3区 伊藤柚葉(経営1)、4区 村上礼乃(経営1)、5区 村上礼乃(経営1)、6区 渡辺光美(経営2)

Table with 4 columns: 区間(Zone), 名前(Name), 記録(Record), 通過順位(Through Rank). Shows results for each zone from 1st to 6th.

大会は、フレッシュな布陣で不安要素は多いものの、6名の選手たちが、ほぼ現状の力を出し切ってくれたと感じています。6名全員が区間10位以内で走りつづけた。全選手が必死に走りつづけています。

また、選手たちの成長も目覚ましいです。学生たちの成長は早く、1つの大会でも、多くのことを吸収し、大きく成長してきます。今大会の経験は必ず次に繋がります。

女子 インカレ代替大会ベスト4

全国大会での過去最高成績。インカレ代替大会でベスト4に入った。選手たちは、日々の練習を怠らないうちで、最高のパフォーマンスを発揮した。

男子 駅伝部 1区 砂岡は区間初の力走で区間2位

第52回全日本大学駅伝対校選手権大会は4月25日、仙台市で開かれた。男子駅伝部は1区で砂岡選手が区間2位の好走を見せた。

砂岡選手は、区間初の好走で区間2位を獲得した。チームは、この好走で区間初の好スタートを切った。

大正製薬とオフィシャルサプライヤー契約 スポーツ向け飲料提供受け販促に本学ロゴ 「リポビタン for Sports」2商品を対象5部に

大正製薬とオフィシャルサプライヤー契約。スポーツ向け飲料「リポビタン」の提供を受け、販促活動を行う。



JOSAI SPORTS FIELD竣工式 城西スポーツ新拠点の完成祝う

JOSAI SPORTS FIELDの竣工式が9月19日であった。城西スポーツ新拠点の完成を祝う。



城西スポーツ新拠点の完成を祝う。新しいスポーツ施設が完成し、選手たちの活躍の場となる。

Table with 4 columns: 区間(Zone), 名前(Name), 記録(Record), 通過順位(Through Rank). Shows results for the 16th zone of the relay race.